

ブドウ(無核・無加温栽培)の栽培・防除暦(平成30年版)

月	旬	生育相	管理作業	対象病害虫	基幹防除	100% 当たり 薬量	補完防除及び注意事項	散布日 散布量 記入欄	
1		休眠期	発芽促進(CX-10)処理 主枝延長枝への芽傷処理	◎越冬病害, 枝膨病	罹病枝, 巻づる, せん定枝, 落葉は, 園外に持ち出す 防風垣を整備し, 園内の通風を良くする				
2	上		ビニル被覆 灌水						
3	上 中 下	萌芽直前 萌芽期	灌水	◎べと病	キノドーフロアブル	600倍	166cc	○晩腐病の発生があった園 ペフラン液剤25 250倍 萌芽後は霜害対策を講じる	月 日
4	上 中 下	発芽 展葉期 展葉10枚 開花始め	芽かき 灌水 新梢誘引 摘心・花穂整形・摘房 副梢除去	◎べと病, 褐斑病 晩腐病 ◎べと病, 褐斑病 晩腐病 ◎灰色かび病	ジマンダイセン水和剤 ジマンダイセン水和剤 ハスワード顆粒水和剤	1,000倍 1,000倍 1,500倍	100g 100g 66g	※病害は十分な散布量(300% 10a以上)で初期発生を確実に抑える ○アカガネサルハムシ スミチオン水和剤40 1,000倍 ※ハウス内の湿度が上がらないよう換気を行う (病害発生防止)	月 日 月 日 月 日
5	上	盛期	第1回目ジベ処理 (2~3回に分けて)						
		終期 果粒肥大期	第1回目ジベレリン処理 (巨峰系4倍体品種の場合 ジベレリン12.5ppm+フルメット5ppm)					【実施中心日: 月 日】	
	中	灌水 摘粒, 摘房 第2回目ジベ処理 (1回目から約10日後)	◎灰色かび病 ◎チャノキアザミウマ ハマキムシ類	フルーツセイバー オルラン水和剤 ※花がら落としを十分に行う	1,500倍 1,500倍	66g 66g	※灰色かび病は耐性菌発生の恐れがあるため, 同一農薬を連用しない ○灰色かび病 スイッチ顆粒水和剤 3,000倍 ○チャノキアザミウマ アクトラ顆粒水溶剤 2,000倍	月 日	
	下	果粒肥大期	第2回目ジベレリン処理 (巨峰系4倍体品種の場合 ジベレリン25ppm)					【実施中心日: 月 日】	
		摘粒	◎晩腐病, 褐斑病 ◎チャノキアザミウマ	袋掛け前 オンリーワンフロアブル コルト顆粒水和剤 ※袋掛け前には必ずチャノキアザミウマの 防除を行う。	2,000倍 3,000倍	50cc 33g	○環状剥皮(目的:着色促進) (満開から30~35日後) ○コウモリカ カットサイトS 原液~1.5倍(21日前まで) ※ 幼虫食入期直前~食入初期に主幹部に 塗布する 【袋かけ後】 ○チャノキアザミウマ多発生時 ダントツ水溶剤 4,000倍(前日まで) ティファWDG 5,000倍(前日まで) モスピラン顆粒水溶剤 2,000倍(14日まで) ○ハダニ類 スターマイフロアブル 2,000倍(14日前まで) ○ハマキムシ類 サムコルフロアブル10 5,000倍(前日まで) ○べと病 エトフィンフロアブル 1,000倍(7日前まで) レバースフロアブル 2,000倍(7日前まで) ○褐斑病 オンリーワンフロアブル 2,000倍(前日まで)	月 日 月 日	
6	上 中 下	硬核期 果粒軟化期 着色開始	袋掛け (できるだけ昼温を下げる) 新梢誘引 灌水 副梢除去(1~2葉残し) ビニル除去	◎褐斑病 ◎べと病	ピニール除去前 オーシャインフロアブル(7日前まで) ランマンフロアブル(14日前まで)	2,000倍 2,000倍	50cc 50cc		月 日 月 日
7	上 中 下	果粒軟化期 成熟期	新梢誘引 適正着果量確認 新梢管理	◎べと病	ムッシュホルトDF 又はICホルト48Q	500倍 40倍	200g 2.5kg		月 日
8	上 中		収穫始め 収穫終わり						月 日
9				◎べと病 ◎ブドウトラカミキリ	ムッシュホルトDF 又はICホルト48Q スミチオン水和剤40	500倍 40倍 800倍	200g 2.5kg 125g	スミチオン水和剤40の散布は収穫後に限る	月 日
10			↑土づくり ↑土壌改良資材 ↑堆肥投入 ↓中耕	◎べと病	ムッシュホルトDF 又はICホルト48Q	500倍 40倍	200g 2.5kg	ブドウトラカミキリ発生時は, ダントツ水溶剤 2,000倍を加用する	月 日
11		落葉前		◎べと病	ムッシュホルトDF 又はICホルト48Q	500倍 40倍	200g 2.5kg	※早期落葉を避け, 初霜まで葉を保つ	月 日
12		休眠期	排水対策 縮・間伐 整枝・せん定 巻づる除去					○白紋羽病 フロンサイトSC 500倍 50~100% 樹 ※ 灌注器で樹幹から半径1m程度の範囲で 数ヶ所に灌注処理を行う。かぶれに注意	

注1)平成30年1月5日現在の登録内容に基づき記載
注2)農薬使用時期・使用回数等については別紙参照

【施肥基準例】

くみあいぶどう配合1号(7-7-7)使用の場合 (10aあたり)

時期	肥料名	生産量		
		1.5t	1.8t	2.1t
初秋肥 (収穫直後)	尿素 (硫安)	100g/樹 (200g/樹)		
秋肥 (11月上旬)	くみあい ぶどう配合 1号(7-7-7)	5袋	7袋	8袋

注)堆肥は完熟牛ふん堆肥2t/10aを施用する

【植物成長調整剤について】

薬剤名	使用目的	使用時期	使用方法	希釈倍数	散布量	本剤の使用回数
CX-10	休眠打破による新梢の萌芽促進及び発芽率の向上	収穫後発芽前	結果母枝に散布又は塗布	10~20倍	150~200% 10a以内	1回
STジベラ錠 (巨峰系4倍体品種) [無核栽培]	<2回処理> 無種子化と果粒肥大促進	満開時~満開3日後 満開10日~15日後	花房浸漬 果房浸漬	ジベレリン 12.5~25ppm ジベレリン 25ppm	-	2回
フルメット液剤 (巨峰系4倍体品種) [無核栽培]	着粒安定	満開時~満開3日後	花房浸漬	ホクコルフェニロン 2~5ppm	-	1回
ストマイ液剤20 アグレプト液剤	無種子化	満開予定日14日前~開花始期	散布又は花房浸漬	1,000倍 (200ppm)	-	1回

※ クイーンニーナ, シャインマスカット: 無核果率向上のために開花前にストマイ液剤20 1,000倍散布

※ 使用薬剤, 時期, 濃度・量, 方法については, 品種毎にラベルを熟読の上使用する

＜農薬登録内容が変更されている場合があるので, 農薬使用前には表示ラベルをしっかりと確認しましょう!＞